



～ 夢ひとすじに ～
宮原中だより

自ら学び 心豊かに たくましく

平成 27 年度 第 4 号
平成 27 年 7 月 1 日 (水) 発行
さいたま市立宮原中学校
メールアドレス
miyahara-j@saitama-city.ed.jp
ホームページアドレス
<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp/>

「ぞうさん」

校長 やました せいじ
山下 誠二

ぞうさん ぞうさん おはながながいのね そうよ かあさんも ながいのよ
ぞうさん ぞうさん だあれがすきな の あのね かあさんが すきな のよ

上記の歌詞は、昨年2月28日に104歳でお亡くなりになられた「まどみちお」という詩人が、書かれました。*「やぎさんゆうびん」や「一年生になったら」など、童謡の歌詞を多く書かれた人です。

まどさんの多くの作品の中に、この「ぞうさん」の歌詞があります。誰でも一度は歌ったことがある有名な歌だと言っても過言ではないでしょう。ところで1番の「ぞうさん ぞうさん おはなが ながいのね」は、誰が誰に言っている言葉なのでしょう。おそらく森や草原の中で、猿だかキリンだかが、子ゾウに向かって言っている言葉とも考えられます。<ぞうさん ぞうさん おはながながいのね>と言われた子ゾウは、からかいや悪口と受け取るのが当然ではないかと思うんです。この世の中にあんなに鼻の長い生きものはほかにいませんから。つまり「おはなが ながいのね」は「お前の鼻は長くて変だぞ」という意味で“いじめ”の言葉とも捉えることができます。ところが子ゾウは、“からかわれている”とか“悪口を言われている”と悪くするのはなく「そうよ かあさんも ながいのよ」と言い返しています。けっして、「お前だってお尻が赤くて変だぞ」とか「お前だって首が長いじゃないか」とは言い返しません。鼻が長いことに誇りを持って返答しています。そう言い返された猿だかキリンだかは、ハッとしたのでしょうか。言葉ががらっと変わります。「ぞうさん ぞうさん だれがすきな の」すると子ゾウは「あのね かあさんが すきな のよ」と返します。たったこれだけのやりとりの中に、母親への愛情に裏打ちされた子ゾウの強さが表現されていると思います。まどさんは、戦前、戦中、戦後と中国で暮らし、日本人と中国人の立場が180度変わる状況を経験しました。この経験をもとに、帰国後1951年この詩を書かれたそうです。いじめの根源には、自分と違うものを排除しようとする気持ちがあります。「同調圧力」という言葉もあり、人に対して自分と同じものを求めることにより安心する気持ちです。からかいや悪口の意識なしに投げかけた感嘆や驚きの言葉でも、受け取る側に劣等感などの意識が潜在すれば悪口と受け取ることがあり得ます。同じ言葉であっても、受け取る側の気持ち次第という部分もあるということです。今一度、子ゾウの強さについて考えてみましょう。

『ちがっても仲良くしようではなく ちがうから仲良くしよう!』

さいたま市では、体罰・暴言等不適切な指導の根絶のために、平成25年度より「希望あふれる学校づくり推進運動」に取り組んでいます。教育は、教職員と児童生徒や保護者との信頼関係の上に成り立っています。体罰、暴言等だけでなく、信用失墜行為の禁止、秘密を守る義務等、教職員のサービスの徹底が叫ばれています。また、学校は、さまざまな個人情報を抱えており、その保持について先日も「個人情報の管理の徹底及び教職員の事故防止」の通知が教育委員会より届きました。本校でも、「さいたま市情報セキュリティポリシー」に基づいて、個人情報の取り扱いや管理等について継続的に研修を進めてまいります。